

講義資料

ドラマ『ミステリーゾーン』に学ぶオムニバスの魅力

『ミステリーゾーン（トワイライト・ゾーン）』

1959年～1964年放送 アメリカのテレビドラマ。

スティーブン・スピルバーグ監督ほかハリウッドの監督のほか、日本の『ウルトラQ』『世にも奇妙な物語』などのオムニバス・ドラマシリーズに多大な影響を与えた。『トワイライト・ゾーン／超次元の体験』（1983年）として映画化。

【特徴】

- ・案内人（語り部）の存在とナレーションの妙
- ・毎回主人公が異なり、各話に繋がりが無いオムニバス・シリーズ
- ・「日常」から「非日常」へと入っていく物語。
- ・SF、ホラー、サスペンス、ファンタジーなど、多様なジャンル。
- ・グッドエンドとバッドエンドがある。
- ・過去、現在、未来の物語が混在している。

【各エピソードに学ぶ魅力】

- ・「夢の中に消えた男」「敗北者（ウィロビーで停車）」に見る“ここではない何処かへ”という物語の系譜
- ・「奇蹟」「弱き者の聖夜」に学ぶ“信じる力”と“奇蹟”について
- ・「すべては彼の意のままに」に学ぶ“視点をずらす”ということ
- ・「幻の砂丘」に見る“タイムスリップ運命論”
- ・「遠来の客」に学ぶ“箱の中のモンスター”と“映像で語るということ”
- ・「8時間の奇蹟」に学ぶ“奇蹟が起きるきっかけ”
- ・「No. 22の暗示」に見る“悪夢”の恐怖
- ・「33号機の漂流」に見る“飛行機”と“時空ワープ”の系譜
- ・「子供の世界」とリメイク版（映画『トワイライト・ゾーン』）の相違と工夫
- ・「日本軍の洞窟」に見る“偏見の恐怖”
- ・「たそがれの賭け」に学ぶ“老い”と“寿命”
- ・「ロボットの歌」から読み解くレイ・ブラッドベリの話法